

審査の結果の要旨

氏名 富尾 淳

本研究は、地方自治体の国民健康保険(国保)被保険者全数を対象として、1年間に発生したレセプトデータを縦覧することにより、糖尿病患者の医療の質の評価を行うとともに、医療の質に関連する要因について分析を行ったものであり、下記の結果を得ている。

1. 熊本県の2町の国保被保険者13,650人のうち、2006年5月から2007年4月までの12ヵ月間すべての月で糖尿病の傷病名が記載された医科レセプト計824人分を被保険者単位で名寄せ・連結不可能匿名化されたデータベースを作成した。これをもとに、入院レセプトが発生した患者を除く636人を解析対象として、1)ヘモグロビンA1c(HbA1c)測定、2)眼科検診、3)腎症スクリーニングの3項目のプロセス指標について年間実施頻度および年間実施率を算出した。HbA1c測定は97%で年1回以上実施されており、4回以上でも69.8%と高い割合で実施されていたのに対して、眼科検診の年間実施率は20.8%、腎症スクリーニングの年間実施率は5.8%(尿中アルブミン定量測定では1.9%)といずれも非常に低い水準であることが示された。
2. 上記の各プロセス指標と個人属性との関連について、多重ロジスティック回帰モデルを用いて分析した。70歳未満の患者に対して、75-79歳(オッズ比[OR] 0.58、95%信頼区間[CI] 0.35-0.96)、80歳以上(OR 0.54、95% CI 0.32-0.88)の患者では統計学的に有意に4回以上のHbA1c測定の実施率が低いことが示された。
3. 同様に、各プロセス指標と主要合併症との関連について、多重ロジスティック回帰モデルを用いて分析した。精神障害の合併のある患者では、合併していない患者に比べて、4回以上のHbA1c測定の実施率が低く(OR 0.61、95% CI 0.38-0.98)、眼科検診実施率が低い(OR 0.28、95% CI 0.17-0.74)ことが示された。
4. HbA1c測定頻度と眼科検診、腎症スクリーニングの年間実施率との関連について解析した結果、HbA1c測定頻度レベルが0-3回、4-7回、8回以上と高くなるにつれて、眼科検診の実施率は7.8%、15.6%、39.5%($P<0.001$)、腎症スクリーニングの実施率は1.2%、4.0%、12.4%($P<0.001$)といずれの指標についても実施率が高くなる傾向が示された。

以上、本論文は地方自治体の国保被保険者を対象に糖尿病患者における医療の質の評価を行ったものであり、HbA1c測定は高い水準で実施されていたが、眼科検診および腎症スクリーニングの実施率は非常に低い水準にあることを明らかにした。糖尿病患者の医療の質の評価は米国を中心に実施されており、

医療の質の改善に貢献しているが、我が国においては十分に実施されておらず、特に住民規模のデータである国保レセプトを用いた研究は過去に例がない。本研究は地域住民における糖尿病患者の医療の現状を明らかにしたとともに、レセプトを用いた医療の質の評価の方法論の確立に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。